

東北学院中学校 修学旅行 支援実施報告書

国語教育専修 1 回生 坂元亜衣

1. 実施日 平成 29 年 12 月 7 日(木)
2. 場所 奈良教育大学 及び ならまち
3. 参加者 交換留学生 大学院 2 回生 趙思雨 (企画や準備までの参加)
理科教育専修 修士 1 回生 佐野宏一郎
英語教育専修 学部 4 回生 谷垣徹
国語教育専修 学部 1 回生 坂元亜衣
社会教育専修 学部 1 回生 仲村幸奈
家庭科教育専修 学部 1 回生 畑下さつき
東北学院中学校第 3 学年生徒 13 名、教員 2 名

4. 活動支援内容

平成 29 年 12 月 7 日 (木)、東北学院中学校の生徒と奈良まちフィールドワークを行った。内容としては、和州奈良之図(天保 15 年 5 月版)という古地図を用いて、昔撮られた写真に対応する場所を見つけ、写真に収めるというものである。その際、元興寺には必ず立ち寄り、境内の見学を行うことや、奈良について知ることができるスポット(奈良町資料館や奈良町にぎわいの家など)のいずれかにも立ち寄ることを条件とした。東北学院中学校の学生を 3 グループに分け、それぞれのグループに本学の学生がつき、奈良まちのフィールドワークを行った。

今回の修学旅行支援を通しての学びや感じたことを簡単にまとめたいと思う。私が今回一番感じたことは「準備の大切さ」である。今回、この支援を行うために事前に資料作りを行ったり、実際に奈良まちを歩いてみたり、説明が行えるように学習したりと様々な準備を行った。まだ自分が知らなかったことを多く学ぶことができ、何も知らずにただ見ると、理由などを知ってから見るのでは見方が異なることがわかった。昔の人の知恵や考えを少しでも知ることができたのではないかと思う。しかし、それと同時に、「楽しさを感じるフィールドワーク作りの難しさ」を知った。フィールドワークを行って楽しめたのか、また楽しいだけでなく何かを学ぶことができたのか、他にできることはなかったのか、など自分自身振り返らなくてはならない部分も多くある。「何



フィールドワークでの様子

度も自分の足で歩いてみること」や「自分たちがやってみて楽しいと思えること」が大切だと先輩に教えていただいたので、それを行うことが大切であるのだと感じた。グループごとにそれぞれ特徴があったと思うが、中学生は普段見ることのない古地図に興味を示してくれたり、昔の写真と同じ場所を見つけて楽しそうに写真を撮ってくれたり、奈良でしかできないような貴重な体験に満足してくれているように見えた。今回の支援を経て、説明の仕方や地図の見方などまだまだ課題があると痛感したので、改善をし、また次回このような機会をいただけた際により良いものになるようにしていきたい。初めての企画からの参加でわからないことも多かったが、これを機に企画などにも積極的に参加をし、いろいろなスキルを身につけていきたいと思った。自分にとっても中学校も生徒にとっても学びのある時間になったのではないかと感じる。